

# 令和5年度 公共事業事後評価調書

## 1. 事業説明シート

(区分) **国補** ・ 県単

<b>事業名</b>	林道事業 [森林基幹道開設事業 (国補)]		<b>事業箇所</b>	山梨市牧丘町塩平～山梨市牧丘町杣口		<b>地区名</b>	林道塩平徳和線 (西区間)		<b>事業主体</b>	山梨県													
<b>(1) 事業着手年度</b>	S61		<b>(2) 事業期間</b>	S61～H30		<b>(3) 完了後経過年数</b>	5年		<b>(4) 総事業費</b>	4,108百万円													
<b>(5) 事業着手時点の課題・背景</b>						<b>(8) 事業位置図等</b>																	
<p>本路線は、山梨市牧丘町の鼓川左岸流域と琴川右岸流域の広大な森林地域を管理経営する骨格的な林道であり、起点は山梨市牧丘町塩平地区の県道塩平窪平線に接続し、終点は山梨市牧丘町杣口地区の県道柳平塩山線に連絡する延長約14.4kmの森林基幹道である。</p> <p>利用区域937haのうちスギ・ヒノキ・カラマツ等の人工林面積は775haで人工林率は約83%を占め、造林が盛んに行われてきたが、アクセス道路の整備が課題であったことから本路線の整備に至ったものである。</p> <p>また、基幹道である本路線と既設林道（小楢山線、小倉山線）が支線として結合し、広域的な林内路網のネットワークを形成することにより、人工林の豊富な資源活用はもとより、森林の適正な整備による水源かん養機能などの向上も期待される。</p>																							
<b>(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果</b>																							
<p>(事業着手時未実施)</p> <p><input type="checkbox"/> 主要目標 ○森林整備の効率化 (森林の持つ公益的機能の維持向上や林業生産の効率化等を図る)</p> <p><input type="checkbox"/> 副次目標 ○なし</p> <p><input type="checkbox"/> 副次効果 ○アクセス機能の維持 ○防火帯・延焼遮断帯の確保 ○リサイクルの推進</p>																							
<b>(7) 整備内容 (目標達成の方法)</b>																							
<b>事業概要</b>						<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">凡例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用区域</td> <td></td> </tr> <tr> <td>既整備区間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>今回事業評価区間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>未整備区間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>接続道路</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>出典: 国土地理院発行5万分の1地形図 電子地形図50000(国土地理院)を加工して作成</p>						凡例		利用区域		既整備区間		今回事業評価区間		未整備区間		接続道路	
凡例																							
利用区域																							
既整備区間																							
今回事業評価区間																							
未整備区間																							
接続道路																							
<p>森林基幹道の開設</p> <p>計画延長 14,387m 幅員 5.0m</p> <p>利用区域面積 937ha 森林資源蓄積量 100,665m<sup>3</sup></p>																							

## 2.評価シート(1)

(1) 事業貢献度 <span style="float: right;">〈(良)・不良〉</span>	(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 <span style="float: right;">〈(有)・無〉</span>																																																															
<p>(理由)</p> <p>本林道の完成により、森林施業を効率的に実施できる基盤が整ったことから、主伐等による木材生産や、間伐等の森林整備が計画的に行われるなど、事業効果が発現している。</p> <p>また、これらの適正な実施により、森林の公益的機能の向上にも寄与している。</p> <p>①主要目標 伐採対象人工林割合 12.0% 利用区域内人工林率 79.9%</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">指標</th> <th style="width:40%;">事業着手時点数値等</th> <th style="width:40%;">事後評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩30分範囲内の人工林率</td> <td style="text-align: center;">18.7</td> <td style="text-align: center;">73.1</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※ 事前評価制度が当時はなかったため、今回改めて算出</p> <p>□評価 人工林の内、徒歩30分圏内の区域の割合が基準値70%を達成。 この結果、整備対象森林に容易に到達できるようになり、森林整備が効率的に実施されている。</p> <p>②副次目標 なし</p> <p>③副次効果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">項目</th> <th style="width:80%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクセス機能の維持</td> <td>小樽山への登山など観光のアクセス道として利用されており、緊急時には避難路としての機能も期待できる。</td> </tr> <tr> <td>防火帯・延焼遮断帯の確保</td> <td>林野火災時の防火帯としての機能が期待できる。</td> </tr> <tr> <td>リサイクルの推進</td> <td>従来切り捨てとしていた間伐材や現地支障木を丸太柵工等として有効活用した。また、再生砕石を路盤材として利用した。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況 なし</p>	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	徒歩30分範囲内の人工林率	18.7	73.1	項目	内容	アクセス機能の維持	小樽山への登山など観光のアクセス道として利用されており、緊急時には避難路としての機能も期待できる。	防火帯・延焼遮断帯の確保	林野火災時の防火帯としての機能が期待できる。	リサイクルの推進	従来切り捨てとしていた間伐材や現地支障木を丸太柵工等として有効活用した。また、再生砕石を路盤材として利用した。	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">項目</th> <th style="width:15%;">着手時点</th> <th style="width:15%;">再評価時点</th> <th style="width:15%;">事後評価時点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td style="text-align: right;">2,754 百万円</td> <td style="text-align: right;">3,833 百万円</td> <td style="text-align: right;">4,108 百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td style="text-align: center;">S61~H27</td> <td style="text-align: center;">S61~H27</td> <td style="text-align: center;">S61~H30</td> </tr> <tr> <td>評価基準年</td> <td style="text-align: center;">S61</td> <td style="text-align: center;">H25</td> <td style="text-align: center;">R5</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">経済効率性</td> <td>費用</td> <td style="text-align: right;">-</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td>建設費</td> <td style="text-align: right;">-</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td style="text-align: right;">-</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">-</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">便益</td> <td>便益</td> <td style="text-align: right;">-</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td>木材生産等便益</td> <td style="text-align: right;">-</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td>森林整備経費縮減等便益</td> <td style="text-align: right;">-</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td>災害等軽減便益</td> <td style="text-align: right;">-</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td>その他※</td> <td style="text-align: right;">-</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">B/C※※</td> <td style="text-align: center;">未算出</td> <td style="text-align: center;">1.10</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">※その他は、維持管理費縮減便益、森林の総合利用便益 ※※本事業の採択基準は、費用便益比(B/C) ≥ 1.0</p> <p>(要因変化の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○総事業費 労務費等の上昇による工事費の増加により、再評価時より事業費を増工</li> <li>○工期 脆弱な地質等への対応のため工期を延長</li> </ul>	項目	着手時点	再評価時点	事後評価時点	総事業費	2,754 百万円	3,833 百万円	4,108 百万円	工期	S61~H27	S61~H27	S61~H30	評価基準年	S61	H25	R5	経済効率性	費用	-	-	建設費	-	-	維持管理費	-	-	その他	-	-	便益	便益	-	-	木材生産等便益	-	-	森林整備経費縮減等便益	-	-	災害等軽減便益	-	-	その他※	-	-	B/C※※		未算出	1.10
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																														
徒歩30分範囲内の人工林率	18.7	73.1																																																														
項目	内容																																																															
アクセス機能の維持	小樽山への登山など観光のアクセス道として利用されており、緊急時には避難路としての機能も期待できる。																																																															
防火帯・延焼遮断帯の確保	林野火災時の防火帯としての機能が期待できる。																																																															
リサイクルの推進	従来切り捨てとしていた間伐材や現地支障木を丸太柵工等として有効活用した。また、再生砕石を路盤材として利用した。																																																															
項目	着手時点	再評価時点	事後評価時点																																																													
総事業費	2,754 百万円	3,833 百万円	4,108 百万円																																																													
工期	S61~H27	S61~H27	S61~H30																																																													
評価基準年	S61	H25	R5																																																													
経済効率性	費用	-	-																																																													
	建設費	-	-																																																													
	維持管理費	-	-																																																													
	その他	-	-																																																													
便益	便益	-	-																																																													
	木材生産等便益	-	-																																																													
	森林整備経費縮減等便益	-	-																																																													
	災害等軽減便益	-	-																																																													
	その他※	-	-																																																													
B/C※※		未算出	1.10																																																													
<b>(3) 事業実施による環境の変化</b>																																																																
<p>①自然環境への影響 間伐等の実施により森林内の光環境が改善され、下層植生が繁茂するなど、水源涵養機能等の公益的機能が増進している。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 なし</p> <p>③環境保全対策の効果発現状況(措置を講じた場合) なし</p>																																																																
<b>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</b>																																																																
<p>①社会経済状況の変化 なし</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化 なし</p> <p>③事業環境等の変化 なし</p>																																																																

評価シート(2)

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 <span style="float: right;">〈有・<b>無</b>〉</span></p> <p>(理由)          本地域では、林道の完成により森林整備を効率的に実施できる基盤が整ったことから、これまでに、間伐などの森林整備を延べ1,091ha実施し、5,360m<sup>3</sup>の木材を搬出している。          今後の森林整備についても、森林の有する多面的機能を発揮させるため、森林施業の集約化や高性能林業機械を導入し施業の低コスト化を図りつつ計画的に行うことにより、事業効果の発揮が見込まれることから、事後評価を再度実施する必要は無いと考えられる。</p> <p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法          ・時期：            年度          ・方法：</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈有・<b>無</b>〉</span></p> <p>(理由)  なし</p> <p>(具体的反映策)  なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性</p> <p>(理由)  なし</p> <p>(具体的反映策)  なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果)  なし</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈有・<b>無</b>〉</span></p> <p>(理由)  なし</p> <p>(具体的反映策)  なし</p> <hr/> <p>(9) その他特筆すべき事項 <span style="float: right;">〈有・<b>無</b>〉</span></p> <p>なし</p>



### 3.添付資料シート(1)



① 計画地遠景



② 林道の整備済区間と周辺の森林状況



③ 間伐作業の状況



④ 木材の搬出状況



### 3.添付資料シート(2)



⑤ 間伐後の林内状況



⑥ 森林整備後の林内状況



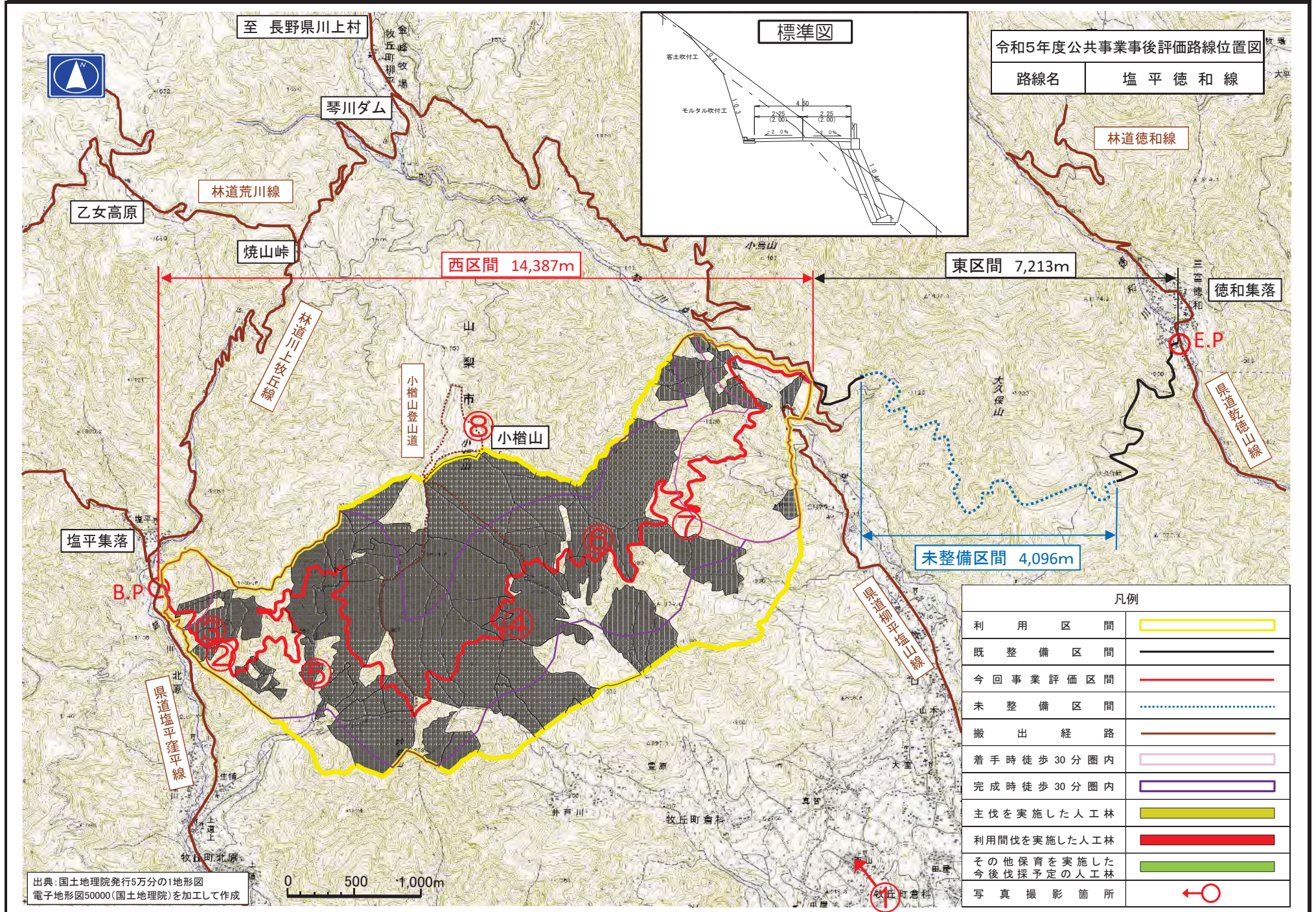
⑦ 現地支障木を利用した丸太柵工



⑧ 森林空間とのふれあいを創出



### 3. 添付資料シート (3)

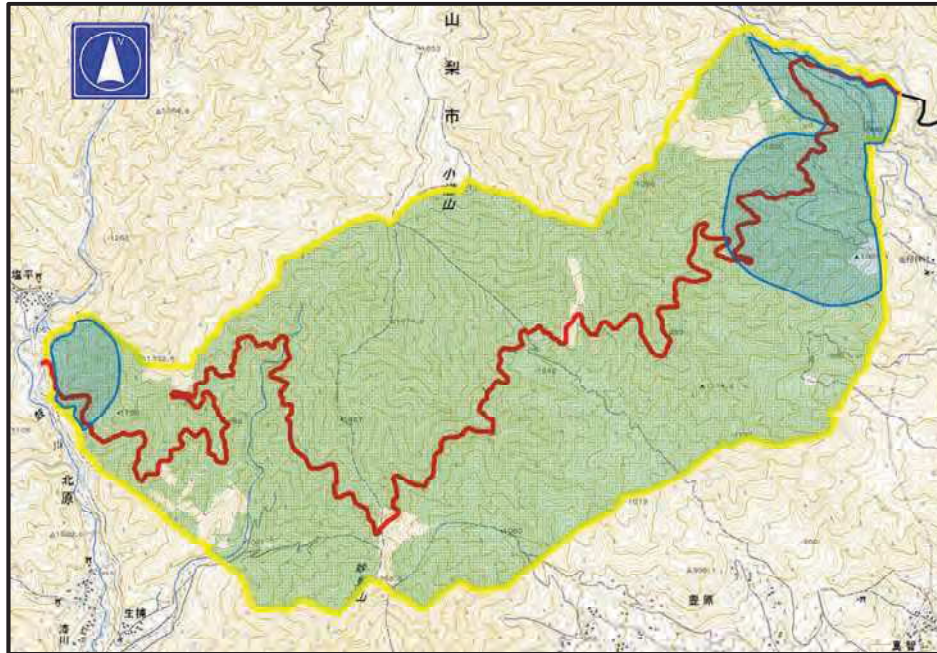




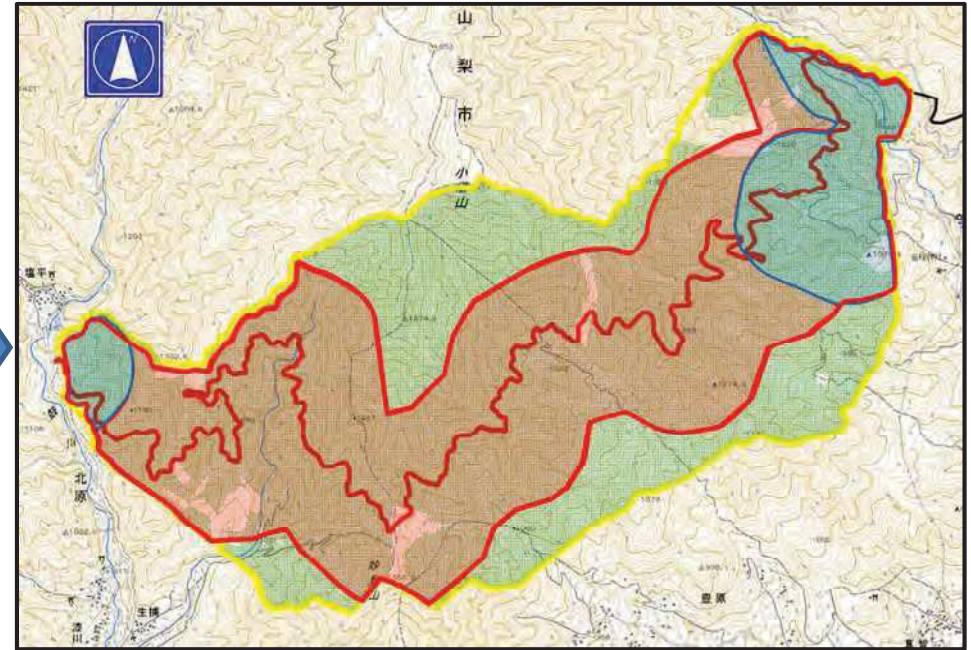
### 3. 添付資料シート (4)

徒歩30分以内に到達できる範囲内の人工林率

林道開設前:人工林率18.7%



林道開設後:人工林率73.1%



※ 徒歩30分以内に到達できる範囲内の人工林率:基準値70%

